

「笑顔って何もかも超えて伝わる "幸せ"なんだよ」 ～和紙の子児童クラブに来た本物のサンタクロース～



馬場さんと吉田さんは笑顔の仕掛け人です。今回、ミニライブを拝見させてもらったのは初めてでしたが、大いに笑って、子どもたちと一緒に、次は何が来るかとワクワクする高揚感でいっぱいでした。なぜこのようにボランティアでみんなに笑顔を与えるパフォーマンスをなさっているのか、馬場さんに話を聴いてみました。

12月25日(火)、和紙の子児童クラブにて「パロディ倶楽部」のお2人、馬場和彦さん(坂本)、吉田亨さん(皆谷)がミニライブを行いました。

クリスマスということもあってサンタクロースの恰好で様々な演目を子どもたちに披露していただき、陽気な吉田さんの歌としぐさにぴったりと息の合った馬場さんのギター、そして何より面白い歌、歌詞に子どもたちは大喜びの大笑い、知っている歌をみんなで歌い本当に楽しそうでした。子どもたちにとって笑顔あふれる良い思い出のクリスマスパーティーとなったことでしょう。

「どんなことがあっても、人に笑顔を伝えることが大切なんだと思うよ。趣味の一環といった感じで音楽片手に、ただ真面目に歌っている意味がないことに気づいた。だからね、ある時、大好きな音楽を使って人を笑わすようなことをやってみたんだ。そしたらみんな大笑い！それと同時にね、僕らも笑っていたんだよ。そこから始めたんだ、こういう活動を。」



「人を笑顔にするとその分、必ず自分たちにも帰って来る。みんなが僕らを見て笑ってくれるように、僕らもみんなを見て笑っている。笑顔は人を魅力的に輝かせるよね。誰かを笑顔にできるってそんな幸せなこと他にはないよ。そして音楽も続けられる、一石二鳥だ。」

「学童では得意の替え歌で子どもたちが大喜びしてくれるし、同じことをお年寄りがいる席で演奏しても笑ってくれる。笑って老若男女共通なんだよね。そして何より！笑顔って世代も性別も何もかも超えて、みんなを幸せにできるんだよ。」

誰かを笑わせ、幸せにするのは容易なことではありません。それを成し遂げているパロディ倶楽部のお2人、皆さんも出会ったらぜひ笑顔をいただいちゃってください。



伝統を写真とともに一写友会繭玉づくり

1月12日(土)、東秩父村写友会では毎年恒例の繭玉づくりを行いました。

繭玉とは、小正月の日に飾る餅花で、米の粉または餅を繭のように丸めて梅などの枝につけ、床の間や柱などに飾るものです。農作物の豊作を予祝する餅花が、養蚕と結びついて生れた農村の習俗で、蚕の成長と同時に農作物の順調な生育を祈願する意味が付されています。

東秩父村写友会では成人式の日に合わせ、鮮やかな繭玉をつくり、各公共の建物や企業などに飾る行事を行っています。今年も5色の繭玉が梅の枝をきれいに飾りました。

